

飼養管理の違いによる肥育豚の体構成成分の変化について

第 1 報

花田 広・大木場格・甲斐勝利・竹下 悟・中村美実 (宮崎県畜産試験場川南支場)

Hiroshi HANADA, Itaru OHKOBA, Katsutoshi KAI, Satoru TAKESHITA and Yoshimi NAKAMURA :

Relationships between Feeding Levels and the Body Compositions for Fattening Pig

豚の部分肉取引きにおいて、“脂肪カミ”と呼ばれる筋肉間に多量の脂肪を蓄積したものが問題となっている。そこでとくに育成期の栄養管理とその発生との関連を、体構成成分の変化を追うことにより調査したので、その結果を報告する。

1. 材料および方法

供試豚は LWH 種60頭を第1図のとおり配置し、第1図の調査頭数を示した時期にと殺後、5頭中の4頭(♂-2・♀2)の各左半丸を、精密分離法により筋肉・脂肪・骨・皮に分離した。飼料は第1図の給与方法で全期間を通じて不断給餌とした。

2. 結果および考察

試験豚の発育は、どのと殺時期でも試験区が対照区よ

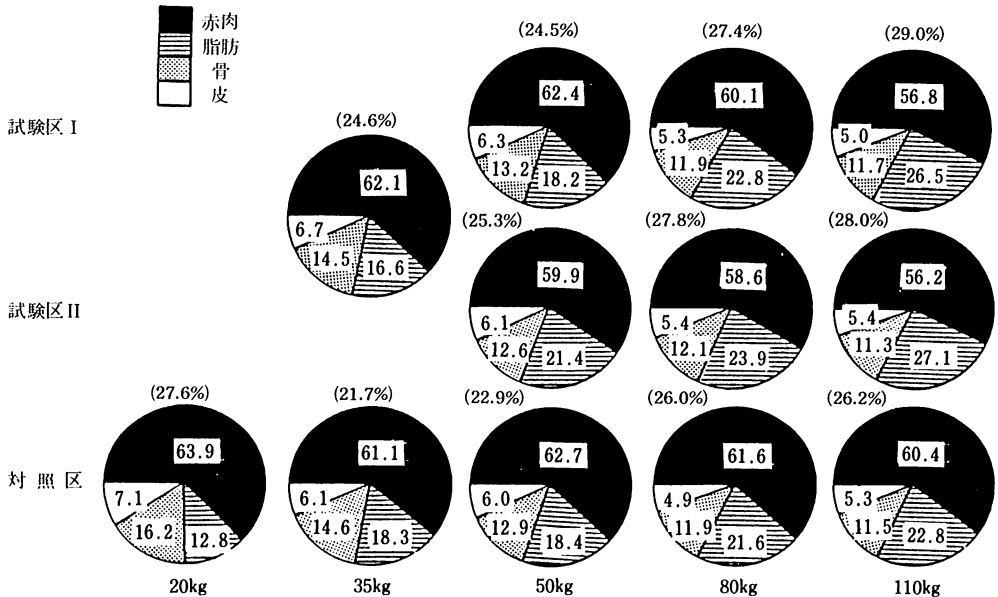
り優れ、35kg 時、50kg 時の I 区と対照区、110kg 時の II 区と対照区の間有意差がみられた。体構成成分の割合は第2図に示したとおりで、35kg 時を除いて試験区は対照区よりも赤肉割合が少なく、脂肪割合・全脂肪に対する筋間脂肪の割合が多かった。また、日齢に伴う赤肉割合の減少は試験区が対照区より大きく、さらに脂肪割合の増加は飼料切変え後のと殺時期に顕著であった。

以上の結果より、エネルギー含量の高い子豚用飼料を長く給与するほど成長が速く、また脂肪割合および筋間脂肪割合が増加し、脂肪カミ発生の一つの要因となることが示唆された。

区	体重	8.5	20	35	50	65	80	95	110 kg	計
試験区 I					5		5		5	15
試験区 II			5	5		5		5		20
対照区		5	5	5		5		5		25
調査頭数		5	10	15		15		15		60

注) 1. TNDN 79.0 DCP 16.0 TNDN 77.0 DCP 14.0 TNDN 76.5 DCP 12.0
2. 開始体重 0.5kg までは離乳用飼料

第1図 試験計画と試験飼料



() は全脂肪に対する筋間脂肪の割合
第2図 枝肉に占める構成成分の割合